

都市整備部下水道室
(大阪市中央区)
事業課 建設グループ
土木職
永本 隆行さん

府庁別館4階にある下水道室では約30人の職員が、快適で安心して暮らせる街づくりと地球にやさしい循環型社会の実現をめざして下水道にかかわる仕事をしています。

自由な声があげられる職場に
下水道室の業務は多忙で、連日残業も続いています。永本さんは「今の職場に配属されたとき、とにかく忙しいと思った「地震後は残業や泊まり勤務も増



え、職員の健康管理も気になる」と話します。下水道室のある府庁別館では、空調が18時になると切れてしまいます。いまの職場の改善点について永本さんは「残業時の空調や泊

まの勤務のときの仮眠スペースがほしい」「おかしなことはおかしと言えない職場にしてほしい」と話します。昨年夏に2児のパパになった永本さんの楽しみは、休みの日に子どもと遊ぶこと。大阪北部地震後の対応では、家族の時間が取れず、少し寂しいながらも、府民のために最前線がんばる職員としての決意も伝わってきました。

大阪府立障がい者自立センター(大阪市住吉区)
自立支援課
ケースワーカー
鈴木健太郎さん

天王寺駅から市バスに揺られて15分。上町大地の南に位置し、住吉大社や帝塚山古墳など歴史を感じさせる街並みの一角に府立障がい者自立センターがあります。同じ敷地内には府立大阪急性期・総合医療センター

利用者の支援方針をまとめ、家族や地域との連絡を取り次ぐなど、多様な役割を担うケースワーカーの鈴木さんは、大学時代に職場体験したことがきっかけで大阪府に就職。「市町村ではやっていない仕事があるところが魅力的です」と語ります。

職場の悩みもみんなで共有、組合の力で職場も改善
鈴木さんは「会議ができる部屋がほしい。会議をするときは、利用者の多目的室を借りるためそのたびに退室してもらうのが申し訳ない」と悩みを話します。女性からは、職員用トイレ



この1年間に取材した記事を抜粋して掲載しています。

いろいろな職種・職場の仲間が日々頑張っています!

やりがいのある仕事のできる働きやすい職場をいくつか紹介

のチームワークの強さや大切さ、利用者への長期的な直接支援を通じて、やりがいを感じながら日々の業務に奮闘する姿が伝わってきました。



この1年間に取材した記事を抜粋して掲載しています。

大阪府立中之島図書館
(大阪市北区)
大阪資料・古典籍課
司書
山田 瑞穂さん

堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島にある府立中之島図書館は、1904年に建てられ国の重要文化財にも指定されています。この図書館では、約20人の府職員が働いています。休みの日には他の図書館にも足を

館内の案内をする山田さん
運ぶというくらい本が大好きな山田さんは、資料の公開や本の仕入れ、利用者の問い合わせに対する回答な

どの仕事をしています。図書館の役割を守り、継承したい
山田さんは「図書館は住民や弱い立場にある人がお金をかけなくても、生きていこうと必要知識や正しい情報を得るためにある。1990年以前の情報はインターネットよりの方が正しい情報が多く、都道府県立図書館は江戸時代の本や資料まで置いてあるところも多い」と、都道府県立図書館の役割や司書の仕事に対する誇りが伝わってきました。

府立図書館には民間委託や指定管理者制度が導入され、図書館の職員や予算も大幅に削減されています。また、図書館司書の採用がなかった時期もあり、職員数も少なくなって「コミュニケーションを取る時間が少なくなっている」とも山田さんの悩みです。



大阪国際がんセンター
(大阪市中央区)
腫瘍内科・腫瘍循環器内科
看護師
中川 舞さん

大阪国際がんセンターは隣接する大阪国際がんセンターの腫瘍内科・腫瘍循環器内科病棟で看護師として働く中川さんは、看護師だった母親の影響もあって看護師を志しました。現在は抗がん剤投与や副作用に苦しむ患者の

対応に追われる日々を送っています。「歩くこともできなくなった患者さんが、退院後に歩いて来てくれたときは、とてもうれしかったです」と話す中川さんからは、患者が元気になっていく姿がやりがいや喜びにつながっていることが伝わってきます。

みんなの思いを職場環境の改善につなげたい
仕事の賃や給料、残業時などの労働条件が気になり、そこで感じる矛盾を自ら



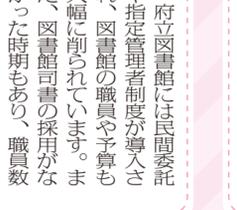
と問題意識を持って、職場スタッフの思いを聞いて、組合を通じて働きやすい職場環境づくりをめざして発信していった」と労働組合への期待を熱く語ります。命にかかわる仕事でもあり、職場では看護師一人当たりの負担も大きくなっていきます。患者に寄り添った看護をするためにも、スタッフが増えるので、やっぱり基本給を上げてほしい。もっと

大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
(泉南郡岬町)
技術職
田中 咲絵さん

晴れた日は明石海峡大橋も見え、美しい夕日に見える研究所です。ここでは研究者5人と技術職員2人、船長2人と非常勤職員が、大阪湾の環境を守り、漁業の振興を支えるためにがんばっています。

最近では貝毒も報告されているのでフランクソンの調査、水質や環境改善に向けた取り組みが発生しない取り組みにも力を注いでいます。田中さんは「魚がたくさん獲れるきれいな大阪湾にしたい」という思いで、仕事に取り組みますが、水質の分析をする機械の調子が悪くて、思うように仕事が進まないことが悩みだと話してくれました。

今回の取材を通じて、職員のみならず「魚がたくさん獲れる美しい大阪湾を」という強い思いや熱意、そのための懸命な努力が伝わってきました。



大阪湾の水質の成分を分析している田中さん

東部流域下水道事務所
鴻池管理センター
(東大阪市)
設備保全担当
電気職
寺脇 剛史さん

鴻池新田の寝屋川沿いに東部流域下水道事務所鴻池管理センターがあります。広大な敷地には、下水道から流れてきた家庭排水などの汚水と雨水の処理場(鴻池水みらいセンター)があり、運転管理と設備保全を

17名の職員が担当しています。安全に処理場の運転ができるように
昨年4月に採用された寺

脇さんは、職場に配属されたときは、建物が古いことや手書きの図面に驚きながらも、日々勉強しながら働いています。大阪北部地震発生時に職場にいた寺脇さんは、一人で電話対応などをこなしたそうです。自分一人で判断できなくても多く、緊急時の対応の難しさを知りました。元日の地震と集中豪雨等の対応に追われていました。まだまだ学ぶことがたくさんあって大変だけれど、自分が求められることであれば「でも行きたくない」と話す寺脇さんからは、もっと現場へ行ったり、府民のために頑張りたいという強い思いが伝わってきました。

当たり前のように生活の中に溶け込んでいる設備にもかかわらず、その役割の大きさは計り知れません。まさに「縁の下の力持ち」です。



と問題意識を持って、職場スタッフの思いを聞いて、組合を通じて働きやすい職場環境づくりをめざして発信していった」と労働組合への期待を熱く語ります。命にかかわる仕事でもあり、職場では看護師一人当たりの負担も大きくなっていきます。患者に寄り添った看護をするためにも、スタッフが増えるので、やっぱり基本給を上げてほしい。もっと

ど、自分が求められることであれば「でも行きたくない」と話す寺脇さんからは、もっと現場へ行ったり、府民のために頑張りたいという強い思いが伝わってきました。



泉州農と緑の総合事務所
(岸和田市)
農の普及課
農学職
石田 真依さん

泉州府民センターの3階にある泉州農と緑の総合事務所では65人の職員が農林業の振興、農地等の基盤整備、緑化の推進、自然環境の

慣れない土地を一人で車に乗って農家を足運ぶことも戸惑いや不安を感じ、ときには涙する日もあったそうですが、農家の方と一緒に取り組んだイベントの成功が自信につながり、笑顔で仕事に向き合えるようになりました。

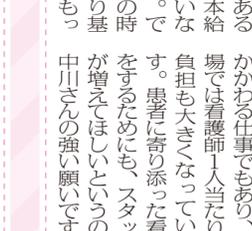
農家と関わりたい
普及指導員は国家資格で、法律で各都道府県に設置が義務付けられています。石田さんも資格を取得するために試験勉強にも励



個人別支援から集団支援へと広げたい
和田さんの担当する子どもたちは障がいがあるアピアが必要だが、何か一つ進むたびに壁が立ちました。母と和田さんは、保健師として障がい等で支援が必要な子どものケアとその家族への訪問・相談などの仕事をしています。また、同じ環境にある家族同士のつながり作りのための講演会

りがいを感じます。その子たちの日々の生活が少しでも楽しくなるように支援し、生きやすくなるようにしたい」と語る和田さんからはさらに広げたいという意欲が伝わってきます。看護師から保健師へ転職し11年目を迎え、仕事にやりがいを持って力強さを感じます。

「職場の仲間が笑顔で働けるようにしたい」と語る優しい笑顔がとても素敵で印象的でした。



インタビュー風景

循環型社会推進室
(大阪市住之江区)
資源循環課
リサイクルグループ
環境職
尾山 恵美さん

循環型社会推進室は映洲庁舎の2階にあります。資源循環課では、大阪府下の循環型社会の形成をめざし、一般廃棄物処理施設にかかる市町村への指導監督や広域廃棄物処分場の推進など、大阪府下の環境保全



きっかけは「風の谷のナウシカ」
入庁7年目の尾山さんは、幼いころに観た映画がきっかけで、環境汚染や自然保護に関心を持ち、環境問題に向き合う道を選びました。「仕事を通じて少し

でも環境が良くなっていくことを実感したときにやりがいを感ずる」と話す尾山さんからは、環境問題に真剣に取り組み熱意が伝わってきます。

2児の母でもある尾山さんは、育児短時間勤務を利

用しながら働いていますが、子育てのための制度があっても、業務量が減らず人も増えない現状の中で、仕事との両立の厳しさを痛感しています。そんな中で「働くうえで労働組合は必要だ」と感じ、

労働組合にも参加しました。子どものために仕事を休まなければならないことも多く、職場に迷惑をかけるまいと悩むにつ、フォローしてくれる職場の仲間

に感謝し、仕事にも子育てにも奮闘しています。